あけましておめでとうございます

下田市長 松木 正一郎

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの脅威のもと、皆さんはそれぞれ工夫して暮らしながら新しい年をお迎えのことと思います。

新型の未知なる伝染病にいま科学が必死に挑戦し、ワクチン開発が進む一方、私たち市民生活の場でも店舗における飛沫防止対策をはじめ、食堂のテーブルの消毒、宿のチェックイン時の検温などなど皆さんの毎日の努力があらゆる場所で見られます。

政府や自治体でも、営業自粛要請やＧｏＴｏキャンペーンといったアクセルとブレーキの両方を組み合わせながら、社会の正常化に向けた努力が行われていますが、報道されているとおり、大都市圏での感染拡大はとどまるところを知らぬ勢いです。多くの人が集い、遊んだり買い物したり、あるいは学び、商談などの交渉をして、異なる人種、多様な人々が互いに交流して賑わう大都市。それがいま、コロナ禍で様々な問題が露呈し、解決の道筋を見つけられないまま、ほぼ従前と同じ暮らしを送っています。相変わらずデパートには人があふれ、地下鉄も混雑しています。違うのは、みんながマスクをしていることくらい。外目には感染対策をやっているように見えますが、まだ感染拡大は止まらないと言われています。

一方、私たちの暮らす下田のような地方ではどうか。お年寄りの多いこのまちでは、いつもの顔なじみによる安定した生活です。そこに「密」なるものはほぼありません。そうです。避けるべき「密」とは、多種多様な人々が交じり合う都市的な社会環境の中にあるのです（それこそが都市の価値、魅力でしたが、コロナによって価値が逆転してしまった、と言われています）。

これまで、華やかな「賑わい」にあこがれ、大都市を目指し続けた若者たちも、いま、「本質的な豊かさ」に気づき、地方への移住が加速しているという話が最近聞こえてくるようになりました。

安全で真に豊かな暮らしとは何か。これからもそういうことを問い続けながら、市制50周年となるこの節目の年を皆さんと一緒に心豊かに歩んでいきたいと思います。

下田市議会議長 小泉 孝敬

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。市民の皆様におかれましては、コロナ禍による新しい生活様式への移行の中で、当議会に対しご指導、ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、黒船祭をはじめ多くの行事が中止・縮小となりましたが、議会においても議会活動に制約が生じた年でありました。

コロナ禍により心配された夏の海を中心とする観光政策は、下田モデルにより乗り越えることができました。しかし市内の経済状況は、コロナ禍以前の状態には回復しておらず、人口減少や少子高齢化による社会情勢の変化による様々な課題等に対しても、それらの解決に向けて、市民、行政及び議会が一体となり、議論し行動すべき時と考えています。具体的には、防災対策、医療介護、子育て、ワーケーション、空き家対策、ゴミ処理や環境問題等、新しい生活様式の中で方向性を見出し、問題解決のための議論に議会も積極的に関与していきたいと考えております。

さて、下田市は市制施行50周年を迎えます。先輩諸士のご尽力により築き発展してきたこのまちを、より一層活気あるまちにするため、未知の経験で大変なことではありますが、市民一丸となって戦い続けなければならないと思っております。

また本年は、第5次下田市総合計画のスタートの年でもあります。「時代の流れを力につながる下田　新しい未来」をまちの将来像に据えて行動する年であります。本市を取り巻く環境は厳しい状況ではありますが、一方やりがいのある年にもなるはずです。下田市と関わりのある人たちとの「縁」を大切にし、賑わいをまち全体で取り戻すことが「未来への第一歩」と考えております。

結びにあたり、本年はコロナ禍が収まり、延期となった東京オリンピック・パラリンピックが無事開催され、また日常の賑わいが戻ることを願うとともに、市民の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。